

3.地球温暖化「問題」の現状

- 温暖化の科学：
IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第4次報告書によれば人為的温暖化はほぼ確実に将来の被害予測も圧倒的。
- 世界経済への含意：
(主要な温室効果ガスはCO₂であり)世界最大の気体ゴミ問題(廃棄容量に関する『成長の限界』)であり、化石燃料(石油、石炭、天然ガス)の消費の制約を意味する。

「温暖化いろいろ」

<http://www.janjanblog.jp/user/stopglobalwarming/stopglobalwarming/>

必要な温暖化対策の規模

- IPCC第4次報告書によると、気温2°C前半の上昇幅に温暖化を抑えるためには、2015年までに世界の温室効果ガス排出量をピークを打たせ、2050年までに1990年比50%以下へと削減する必要がある。

この2°C前半台までの昇温でも数億人以上に水不足問題が拡大し、脆弱な生態系の崩壊や食糧問題の拡大、洪水や干ばつなど気象災害の増加などが懸念される。

- しかし温暖化対策をとらなければ全世界的な災害が大幅に増加する上、破局的な気候カタストロフィ(グリーンランドと西南極氷床の崩壊、海洋深層大循環の停止、メタンハイドレートの融解など)のリスクも増える。

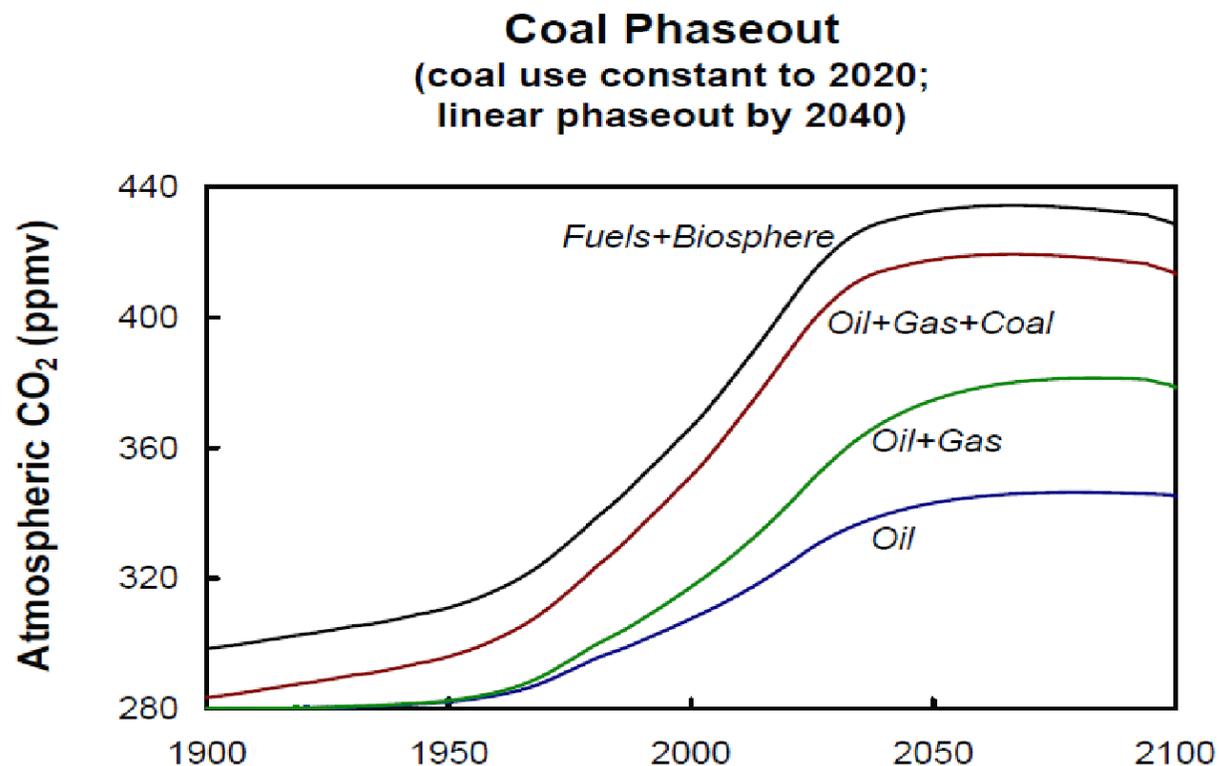
温暖化対策の国際的枠組

- 国際的な対策の唯一の枠組である京都議定書では先進国だけに1990年度基準比5%の削減を求めたが、米国は拒否し続けている。
”しかしどんな政治リーダーも、少なくともアメリカの政治家は#####のような不人気な政策を提案することは政治的な自殺に等しい”
- 途上国にも総量削減という形の温暖化対策に参加をしてもらう必要があるが、議論のテーブルに載せることはまだできていない。先進国側が汚染者負担責任を果たしていないため。

「京都議定書の次のステップは何だろう」

<http://www.janjanblog.jp/user/stopglobalwarming/post2012/>

ジム・ハンセンによる、ピークオイル を前提とするCarbon Budget論



Hansen et al, "Global Warming: Can We Avoid Disastrous Climate Change?
& What is the Impact of "Peak Oil" ?" 08 May 2006 P.53

CO₂の危険なレベルが450ppmvでありこれを避ける
上で石油とガスの資源制約を活用できる。問題は石
炭の段階的廃止政策を取れるかどうか。

4.相互連関とは

- 国際政治学における地球環境レジーム論の中で複数レジーム間の相互連関の問題が提起されている
- 参考:分断された環境問題を繋ぐ
<http://www2s.biglobe.ne.jp/~stars/interlinkage/index.html>



双子の問題= 解決策も一石二鳥(Win-Win)の関係

- ピークオイル=燃料タンクの根元問題
- 地球温暖化=エンドオブ(排気)パイプ問題
- いずれも省エネ・利用効率の向上により石油消費を削減することで一石二鳥となる
- 石油価格高騰は省エネの努力を後押しする…



SWOT分析その1： 地球温暖化対策にとってピークオイル対策はー

外部要因(ピークオイル)

内部要因

	機会Opportunity	脅威Threat
	強いインセンティブとなる	目先の対策に飛びつかれて資金を取られ温暖化も加速 ピークオイル危機の到来で戦争状態となり国際社会が崩壊する
強みStrength 長期の高い削減目標に国際合意が図られやすい	〈強みを活かす戦略〉 石油減耗議定書を短期のポスト京都目標に転用できる	〈縮小する戦略〉 石炭を対象を絞った段階的全廃策を働きかける バイオ燃料のエネルギー収支比EPRを厳しく評価する 戦争は温暖化を介して滅びへの道であるから戦争を止めると説得する
弱みWeakness 倫理にのみ頼りフリーライダーを許す	〈弱みを克服する戦略〉 省エネによる石油消費減がより儲かるようになることを強調する	〈撤退する戦略〉 救命ボート建設戦略を実行し、コミュニティ単位で対策を進める

SWOT分析その2 :

ピークオイル対策にとって地球温暖化対策は一

外部要因(温暖化)

内部要因

	機会Opportunity	脅威Threat
強みStrength 仕方ない強いインセンティブとなる	長期の高い削減目標に国際合意が図られやすい 〈強みを活かす戦略〉 石油減耗議定書を短期のポスト京都目標に転用できる(方便としてパワーダウン交渉の進展を図る)	温暖化のみの対策に資金を取られエネルギー確保にならない 温暖化の交渉のみに時間が取られて危機到来時に間に合わない 〈縮小する戦略〉 一石二鳥の対策の優先順位を高くする 救命ボート建設戦略を実行
弱みWeakness 不確実な要因も多く偽りの希望を抱かれやすい	〈弱みを克服する戦略〉 一石二鳥を強調する	〈撤退する戦略〉 なし

まとめ

- 環境保護派とピーク論者は互いに相手の問題を認め合うことでWin-Winの関係を築ける
“両グループは本質的にはどちらも社会の化石燃料の消費削減に向けた活動をしており、両グループの間での協力は実質的に議論を補強し、政策決定者を説得する力になるだろう”
- 日本にはピーク論者がほとんどいないので、環境保護派がピーク論をよく研究して活用すべき

ブログ「ん! -ピークオイル時代を語ろう-」
<http://ピークオイル.jp/> へお出てください。